

今回は、猫が“痛み”を感じているときの行動について、学んでみよう!!



No.5 猫の“痛み”に気づけていますか？

猫の
医

「猫が飼い主に知ってほしいと思っていること」No.5は、猫の“痛み”にかかわるポイントを紹介します。異常がなさそうにみえても、動物病院には定期的に通院し、定期的に健康診断を受けましょう。

ほかにも、子猫の「医」「食」「住」、子猫のしつけ/予防、また、猫の病気編①甲状腺機能亢進症、②糖尿病/インスリン注射の注意点、猫に薬を飲ませるコツについて紹介したPDFは、アニマル・メディア社のホームページ <http://www.animalmedia.co.jp/> から無料でダウンロードできます。

注意点

飼い主に、ぜひ知っておいていただきたいことがあります。

猫は痛みを“隠す”動物です！
ですから、具合が悪そうにみえなくても、定期的に動物病院で検査してもらうことが、とても重要です。

僕たち猫は、弱みをみせないんだ。だから、痛くても平気な顔をしちゃう



12歳以上の猫の90%が、実は関節炎にかかっていたというデータがあります。

※猫に痛みをもたらす要因には、関節炎以外にもさまざまなものがあります

口のなか： 歯肉炎、吸収病巣、口内炎など	手術： 不妊・去勢手術など	内科系の病気： 膀胱炎、腫瘍（がん）など
運動器： 関節炎（手足だけでなく、胸や腰にも起こる）など	皮膚： 傷、感染症など	

また、軽症のうちには不調に気づかれない猫が多く、動物病院に来る頃には重症になっているという調査報告もあります。

異常がみられなくても、半年に1回は動物病院で健康診断を受けましょう

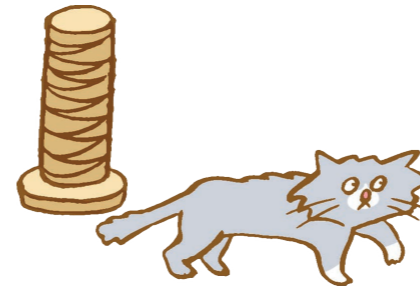
Point

痛みを感じているときに猫がみせる行動の例

どこかに痛みを感じている猫は、下記のような行動をとることが多いと言われています。

下記のような行動がみられなくても、不調を隠していることはよくあります。少なくとも半年に1回は、動物病院を受診しましょう。

さらにくわしいチェック項目は裏面を参照してください



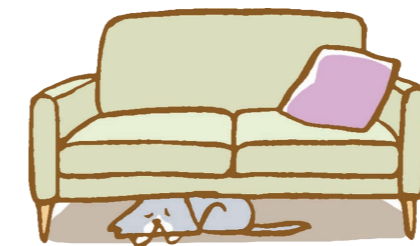
爪とぎをしなくなった



以前よりも怒りっぽい
気性が荒くなった



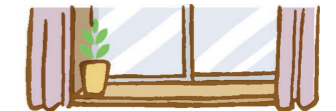
以前ほど遊ばない
じゃれなくなった



隠れたり、警戒したり、逃げるようになった



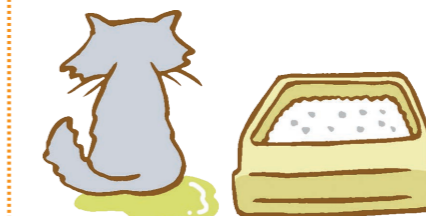
以前よりグルーミング（毛づくろい）をしなくなった



ジャンプをしなくなった
以前はのぼっていた高さへのぼらない



体を触ると嫌がったり、うなることがある



トイレの外での粗相が多くなってきた



横になったり、背中を丸めて、じっとしていることが多くなった

Memo

とくに、スコティッシュ・フォールドは、関節の異常による痛みに必要な注意が必要な猫種です。



何か変だなと思ったら、下記の項目について、
普段の様子を書き留めてみましょう。

記入日

ちゃんの様子

ジャンプはできますか？

以前の様子

最近の変化

高いところへ、1回で飛び上がれますか？

以前の様子

最近の変化

高いところから、飛び降りることができますか？

以前の様子

最近の変化

階段をのぼる/おりることができますか？

以前の様子

最近の変化

こわばった歩き方をしていますか？

以前の様子

最近の変化

伸びをしますか？

以前の様子

最近の変化

人やほかの動物と一緒に遊んだりしますか？

以前の様子

最近の変化

おもちゃで遊んだり、何かを追いかけてたりしますか？

以前の様子

最近の変化

触られたり、抱かれることを嫌がりませんか？

以前の様子

最近の変化

気性が荒くなってはいませんか？

以前の様子

最近の変化

ひきこもったり、隠れがちになっていませんか？

以前の様子

最近の変化

寝てばかりいませんか？

以前の様子

最近の変化

爪とぎをしますか？ 爪がのびてはいませんか？

以前の様子

最近の変化

グルーミング(毛づくろい)をしますか？

以前の様子

最近の変化

フードはこれまでどおりに食べますか？

以前の様子

最近の変化

猫トイレを使えますか？
(トイレに入る、しゃがむ、砂をかける)

以前の様子

最近の変化

記入し終わったら、かかりつけ獣医師にこの表をみせながら相談してみましょう

